

第一回「鳥井音楽賞」
受賞者決まる

サントリー株式会社の創始者鳥井信治郎翁(1879~1962)を記念し、同社創立70周年を迎えた昨年2月、現社長佐治敬三氏より発表された「鳥井音楽賞」の第一回授賞審査会は、1月20日午後1時から東京都千代田区竹平町パレスサイドビル内アラスカで、芥川也寸志、古田徳郎、木村重雄、宮沢縦一、丹羽正明、大木正興、菅野浩和、武川寛海、吉田雅夫、吉村一夫、門馬真美(風邪のため投票のみ)の審査員11氏によって慎重な審査が行なわれた結果、ピアノ・チェンバロ奏者小林道夫氏に決定した。

「鳥井音楽賞」は、前年度の日本のクラシック音楽の発展、向上に最も寄与した日本人に贈られる(賞状・記念品・賞金100万円)もので、さきごろ文化庁より財団設立を認可された財団法人鳥井音楽財団(理事長佐治敬三)がいつさいの運営にあたるもので、前掲審査員は同財団委嘱によるもの。

なお、審査委員会推せんの小林道夫氏の受賞に同財団全理事が賛同し、小林道夫氏の「第一回鳥井音楽賞」受賞が決定した。

× × ×

審査経過と小林道夫氏推せんの理由

「第1回鳥井音楽賞」選考経過について、同日午後5時10分、審査委員代表芥川也寸志氏から概略つぎのように発表された。

- ・選考は各審査委員が個別に挙げた候補個人10名、団体3の審査にはじまり、個人7名、団体3にしぼられた。
- ・すなわち伊藤京子(声楽)、巖本真理、江藤俊哉、小林道夫(器楽)、岩城宏之、若杉宏、小沢征爾(指揮)、日本音楽集団、東京室内歌劇場、二期会(演奏団体)である。
- ・それらをさらに検討し、江藤俊哉、小林道夫、若杉宏の3氏にしぼり、最終的に小林道夫氏を推せんすることに全員が賛成した。
- ・推せん理由……ピアノ、チェンバロ、オルガンの演奏家として数多くの室内楽演奏会においてすぐれた実績を挙げた。その活躍の範囲は、器楽、声楽の伴奏にとどまらず、独奏者または指揮者としても、バロック時代から現代にいたる作品の演奏に常に良心的な態度に貫かれた高水準の成果を示した。

特に、エルンスト・ヘフリガーの伴奏、オーレル・ニコレとの協演、東京ゾリステンにおけるチェンバロの演奏および指揮、バッハ合唱団の指導・指揮、岩波ホールでのバッハ連続演奏における演奏および指揮、毎月のクワドロ東京におけるバロック音楽連続演奏、東京室内歌劇場公演の「田舎の智恵者」(ガルツピ作曲)の指導、演奏などが特筆される活動であった。

なお、東芝レコードにおけるシェーンベルク、ベルク・ウェーベルンの歌曲(長野羊奈子独唱)の伴奏も傑出した演奏であった。

感激の小林道夫氏談

「第1回鳥井音楽賞」受賞の報を杉並区和田の自宅で聞いた小林道夫氏は「えっ、本当ですか。私の仕事は人をたすけることがほとんどで、受賞などには全く関係ないものと思っていました」と憤まじやかに語り、「私としてはこれからも一つ一つの仕事に全力をつくしていきたいと思います」と風邪ごえを感激でつまらしていた。

× × ×

(略歴)

東京都出身・昭和8年1月3日生
昭和30年東京芸術大学楽理科卒
昭和31年毎日音楽賞・新人奨励賞受賞
昭和40年～41年西ドイツに留学
永井進、石沢秀子に師事

(現在)

武庫川女子大学教授
東京芸術大学講師

(関係団体)

バッハ合唱団、バッハギルド、日本ヴォルフ協会、クワドロ東京、東京ゾリステン

(住所)

杉並区和田2-29-3

(電話)

381-2814

以 上